

日本 P-F スタディ研究会『P-F スタディ研究』編集規程

- 第1条 日本 P-F スタディ研究会（The Japanese Association of the Picture-Frustration Study）の会則第4条に基づき、この規程を定める。
- 第2条 研究会の機関誌として「P-F スタディ研究 Japanese Journal of the Picture-Frustration Study（以下、本誌とする）」を年1巻発行する。
- 第3条 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行う。
- 第4条 本誌は、原則として本会会員による、P-F スタディおよびその関連分野に関する研究成果等の発表にあてる。
- 第5条 本誌には、P-F スタディに関する研究論文、研究報告、各種情報、研究会の活動等を掲載する。
- 第6条 研究論文及び研究報告の投稿者（投稿論文の第一著者）の資格は、原則として、本会会員に限る。ただし編集委員会が必要と認めた場合には、この限りではない。
- 第7条 研究論文及び研究報告は、査読指針に従い編集委員会が依頼する査読者の所見をもとに、編集委員会が掲載の可否を決定する。なお、編集委員以外の会員に協力を依頼することがある。審査協力者の氏名は本誌に掲載する。また会員外の専門家を編集協力者として、その意見を参考とすることがある。
- 第8条 執筆にあたっては、別に定める投稿・執筆要項に従うこと。
- 第9条 原稿の印刷に関して特別に費用を要する場合は、執筆者の負担とする。
- 第10条 本誌に掲載した論文の原稿は、原則として返還しない。
- 第11条 本誌に掲載した論文を無断で複製および転載することを禁ずる。
- 第12条 本規程の改廃は、理事会の審議を経て理事長が行う。

附則 この規程は、令和7年9月14日より施行する。

『P-F スタディ研究』投稿・執筆要項（案）

1. 研究論文及び研究報告の投稿者（投稿論文の第一著者）の資格は、原則として、本会会員に限る。ただし編集委員会が必要と認めた場合には、この限りではない。
2. 投稿論文の内容は未公開のものに限る。

投稿・執筆要項

1. 研究論文には、和文と英文の要約をつける。研究報告には和文の要約をつける。和文要約は400～600字、英文要約は120～150語とする。
2. キーワードは5つ以内とする。
3. 形式は、①題名（英文題も記載）、②著者名（英文題も記載）、③所属（英文題も記載）、④日本語要約、⑤キーワード、⑥本文、⑦文献、⑧英文要約（論題、氏名・所属、キーワード、を含む）の順序とする。なお、書式設定は、B5、縦置き、上・下・左・右の余白設定は各30mm、40字×40行、研究論文と研究報告の⑥本文⑦文献は2段組23字×40行の横書きとする。
4. 研究論文と投稿論文の長さ（図・写真・表を含む）は全体で、本誌10頁分以内とする（40字×40行のフォーマットで10枚以内。ワード等の文字カウントは使用しないこと）。図・写真・表が入る場合は、誌面に掲載する大きさを想定したうえで字数に換算し、論文全体の長さが所定の字数を超えないように注意する。
（参考）本誌1頁は約400字×4=1,600字である（たとえば、図表を半頁大で掲載したい場合は、800字分として換算し、本文の字数を調整する）。
5. 図・写真・表は1頁あたり3個以内を目安とし、鮮明で印刷しやすい形にして提出する。また、図1、表1というように通し番号をつけ、それぞれに題と内容を原則として和文で記載する。
6. 記述は、新仮名づかい、常用漢字、算用数字を用い、読点は「,」、句点は「。」とする。
7. 見出しの階層は、原則として以下の表記を用いる。
I ……、1. ……、1) ……
8. 度量衡の単位は原則としてメートル法を用い、mm, cm, mg, kgなどと記す。
9. 外国の人名や地名などの固有名詞は、原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合は、初出の際訳語に引き続いて（ ）で原語を示すものとする。
10. 文献の記述形式は、以下のとおりとする。
（1）本文中に文献を引用した場合は、引用した箇所を「」でくくり明示すると同時に、著者名と公開年を記載すること。
a) 本文中に、著者名を記載する場合
秦(2010)は、「○○○」と述べている。

b) 引用終わりに、著者を示す場合

「○○○」(秦,2010)。

c) 訳本の場合には、原典の発行年と訳本の発行年を、“/”で併記する。

本文中記載, Rosenzweig (1978/2006) 引用末記載, Rosenzweig (1978/2006)

d) 著者が複数いる場合には、筆頭者のみを挙げ、和文献であれば“ら”, 洋文献であれば,
“et al.”を用いる。

〈和文献の例〉本文中記載, 秦ら (2008) 引用末記載, (秦ら, 2008)

〈洋文献の例〉本文中記載, Bell et al. (1965) 引用末記載, (Bell et al., 1965)

(2) 引用文献は、本文の終わりに「文献」の見出しで、著者の姓を規準にしてアルファベット順に一括して記載すること。

a) 雑誌の場合；著者名、公刊年（西暦）、論題、誌名、巻（太字）、号、記載頁の順序による。なお、雑誌名の記載に際しては、和・欧いずれの場合でも、「心研」「J. Clin. Psychol.」といったような略記をしてはならない。

〈洋雑誌例〉

Rosenzweig, S. (1934). Types of reaction to frustration : A heuristic classification. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 29, 298-300.

〈和雑誌例〉

安井友己・秦 一士 (2013). P-F スタディ児童用における結合スコアの発達的变化 甲南女子大学心理相談研究センター紀要, 5. 61-74.

b) 単行本の場合：著者名、公刊年（西暦）、書名、発行所の順序とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者を筆頭にあげ、以下、公刊年、論題、編者名、書名、発行所、頁の順とする。

〈洋書例〉

Rosenzweig, S. (1976). *The Rosenzweig Picture-Frustration Study, Adolescent form*. St. Louis : Rana House.

〈和書例〉

青木佐奈枝 (2008). P-F スタディ 小川俊樹 (編) 投影法の現在 至文堂 pp.175-184.

〈訳本例〉

Rosenzweig, S. (1976). *Aggressive behavior and the Rosenzweig Picture-Frustration Study*. New York : Praeger. 秦 一士訳 (2006) : 攻撃行動と P-F スタディ. 北大路書房

c) 著者名を基準にした一括記載の場合、同一著者で2種以上の文献がある場合は発刊年度の早いものから順に並べる。さらに同年に同一人の2種以上の文献がある場合には、1980a, 1980b のように区別して記載すること。

d) インターネット上で閲覧した資料を引用した場合は、サイトの URL と取得日を記載、あるいは、DOI(digital object identifier)が付されている文献は、その末尾に DOI を記載する。

11. 事例の記述に際しては、連絡等が取れない場合を除き、クライアント本人（あるいは保護者）の同意を得ること。且つ、所属・関連機関等に倫理委員会がある場合は、その承認を得ること。倫理委員会がない場合には、所属機関等の所属長の許可を得ていること。こうした倫理面については、論文中に明記するなど十分に配慮すること。
12. 謝辞を記載する場合は、本文の終わりに一行あけ、「付記」の見出しで書く。
13. 投稿にあたっては、ホームページ掲載の「投稿票」に研究論文、研究報告などの別を明記し、投稿原稿1部と、投稿原稿のデータが入った電子媒体を『日本 P-F スタディ研究会』編集局宛に提出する。提出は受け取りが確認できる方法（簡易書留、レターパック、宅配便など）で送付する。
14. 投稿を受理された論文の著作権は、投稿者の委託を受け日本 P-F スタディ研究会が保有する。なお、『P-F スタディ研究』に掲載された論文は電子媒体等を含め、研究会の許可なく無断で複製・転載してはならない。
15. 研究論文・研究報告の執筆者には、抜刷として PDF を贈呈する。
16. カラー図版など原稿の印刷に関して特別な掲載を希望する場合は、執筆者の負担とする。

倫理的配慮

1. 論文作成にあたっては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省が所管する「人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針」や「個人情報保護法」などを参考にし、倫理面に十分に配慮する。
2. 原稿に含まれる図表や写真等で引用のために転載等の許可を必要とする際には、著者の責任と負担で論文掲載までに許可をとり、その旨を論文に記載する。
3. 著者全員は、投稿論文内容に関して利益相反のある金銭上あるいは私的な関係すべてを明らかにする。申告すべき内容がない場合は、論文の末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものなし」と記載する。申告すべき内容がある場合には、××は〇〇株式会社から資金援助を受けている（社員である・顧問である）のように記載する。